

## 探究Ⅱ（自然科学研究）を評価するルーブリックの開発の経緯

＜令和元年度（Ⅲ期）＞

### 平成31年度 高校生の課題研究を評価するためのルーブリック

	問い	方法	結果	考察	表現
	問いと仮説の設定	調査の計画を立案	データの解釈 (データ処理)	説明の構成	研究成果の発表
4	<p>自らで問いや仮説を設定している。問いや仮説の設定には以下の様な特徴が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって切実である。</li> <li>・社会的な問題と関連づけられている。</li> <li>・問いをかみ砕き研究で明らかにする範囲を明確化している。</li> </ul>	<p>問いの段階で設定した仮説と一致する調査の方法を考えており、以下の様な特徴がみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行可能な計画である。</li> <li>・調査全体の枠組みと個々の実験と関連を考えて計画している。</li> <li>・実験の信頼性や精度を考慮して複数試行することより精度の高い検証の方法などを考えている。</li> <li>・より適切な形へと、思考実験や個々の実験の後に修正する。</li> </ul>	<p>調査で得られたデータの解釈を行う。解釈には以下の様な特徴が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データの種類や調査の目的に応じて、グラフや表で表現する。</li> <li>・統計処理や数学的な思考をすることで証拠として使える形へ変換する。</li> <li>・状況に応じて定量的な解釈と定性的な解釈を結びつけて検証している。</li> </ul>	<p>結果をもとに問いに対する考察をしている。考察には以下の様な特徴が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な主張・証拠が含まれ、それらが筋の通った(一貫した)論理で構成されている。</li> <li>・問うていることと考察していることの間に一貫性がある。</li> <li>・得られたデータと先行研究とを比較・関連づけている。</li> <li>・考察で不十分な点や今後研究が必要となる点が明らかにしている。</li> </ul>	<p>調査全体を通して明らかにしたこと、相手に伝わるように説明している。発表には以下の様な特徴が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の発表を客観的に見直し、不足している点や想定される批判を考えている。</li> <li>・行った調査の中から発表に必要な要素を取捨選択している。</li> <li>・他者の意見や見解から学び、自分の意見を修正したり、論拠をもとに反論する。</li> <li>・事象のモデル化を意識することができている。</li> </ul>
3	<p>自らで問いを設定するとともに、問いに対する自分なりの仮説を設定している。問いを立てたり、仮説の設定にあたり、上記のうちのいくつかについて到達しているものが見られる。</p>	<p>問いの段階で設定した仮説と一致する調査の方法を自分で考え、計画をする。計画にあたり、上記のうちのいくつかについて到達しているものが見られる。</p>	<p>得られたデータの種類や調査の目的に応じて、データを適切なグラフや表などの形で自らで考え表す。解釈にあたり、上記の内いくつかについて到達しているものが見られる。</p>	<p>結果と考察を区別し、考察では自分の主張とそれを支援する証拠をおおまか含み、論理を用いて客観的に考察を構成している。説明の構成にあたり、上記のうちのいくつかについて到達しているものが見られる。</p>	<p>調査全体を通して明らかになったことを発表する。発表においては聞き手を意識し、手順を丁寧に説明したり、実験装置の実物や動画を用いるなどして伝え、質問の応答など双方向のコミュニケーションが成立している。</p>
2	<p>教師に与えられた問いを理解し、問いに対する自分なりの仮説を設定する。</p>	<p>教師の助言をもとに、仮説を検証できるように調査の方法を考え、計画をする。</p>	<p>教師の指示をもとに、調査から得られたデータをグラフや表・統計処理などを用いて表す。</p>	<p>おおまか正しい主張や証拠を含んでいるが、それらを論理的に結びつけられていない。教師の支援のもと、適切な証拠にもとづいた主張を形成する。</p>	<p>発表では、調査の概要を羅列的に説明し、客観的に自分の発表を捉えたりできず、情報を提示するのみになっている。質問に適切に応答することにも困難が見られる。</p>
1	<p>教師に与えられた問いを意識することができず、仮説を立てられない。</p>	<p>教師によって与えられた調査計画にそって調査を行う。調査を実行することにおいて不備がある。</p>	<p>得られたデータをどのように処理したか良いのかわからない。適切なグラフや表を選択できていない。</p>	<p>主張や証拠の結びつきに誤りを含んだり、構成した主張や証拠に誤りがある。その結果、主張が恣意的なものになり、説得したり、信頼を得る主張でなくなる。</p>	<p>発表を行う際に、必要な要素を抽出することができない。聞き手を想定することができず、聞き手の質問の意図を掴んだり、適切な答えを返すことに困難が見られる。</p>

NRC(2011) A Framework for K-12 science education の科学的な手法の要素、及び兵庫県立尼崎小田高等学校の提案をもとに大貫がまとめたものに修正を加えたものを改変した(2015年7月9日)。

<令和3年度(IV期)>

令和3年度 高校生の課題研究を評価するためのルーブリック

段階	基準	問い		方法	結果	考察	表現
		(製作型の探究では「問いや仮説」を「作りたいもの」と置き換える)					
		問いと仮説の設定	調査計画の立案	データの処理や解釈	説明の構成	研究内容の発表や交流	
5	非常に優れた研究に	<p>基準</p> <p>深めてきた問いや仮説について、その学問的・社会的価値を調べた上でその意義を説明している</p>	<p>調査計画が研究を深めるものであり、かつデータの信頼性を考慮している</p>	<p>調査結果を合理的にまとめ、解釈した上で複数に分析できる</p>	<p>考察が論理的で問いや仮説が適切に検証されており、より広い分野の研究と比較した上で、新たな問いを生み出す内容である</p>	<p>論理的に、発表し、かつ議論することで研究をさらに深めようとする</p>	
	<p>優候</p> <p>・深めてきた問いや仮説について、社会や学問においてどのような位置づけにあるか、参考文献等を調べた上で当該分野の話題を取り上げている。 ・数多くの実験をした上で、それを踏まえた仮説を立てている。</p>	<p>・実験の信頼性や精度、誤差の評価を考慮して複数試行することやより精度の高い検証の方法などを考えている。 ・実施の都度、自分で振り返りし、目的に応じて、計画を修正する。 ・先行研究、先行事例や既存の理論を参考にしつつ、調査方法の妥当性を評価しつつ、選択できる。</p>	<p>・統計処理や数学的な思考をすることで証拠として使える形へ変換する。 ・実験と理論式を結びつけている。 ・実験の可否や可能性を探るなかで、データの検証や有効性の確認ができる。 ・必要に応じて、考察に必要な実験条件を提示している。</p>	<p>・得られたデータと先行研究や先行事例とを比較・関連づけて、考察で不十分な点や今後研究が必要な点を明らかにしている。 ・進めてきた研究が、先行研究、先行事例や既存の理論の中でどう位置づけられるか、述べている。 ・対象のモデル化を意識することができている。</p>	<p>・他者の意見や見解から学び、自分の意見を修正したり、論拠をもとに反論する。 ・議論を通して、新たな問いを生み出そうとしている。</p>		
次の段階へ向けて		<p>・幅広い範囲の先行研究や先行事例を調べ、理解して、自分たちの研究の意義を説明する。 ・オリジナルな研究を行うための要件を考える。</p>	<p>・データの信頼性を検討する。 ・全体の論旨の流れに無理がないか考え、必要な実験内容をディスカッションする。</p>	<p>・統計処理を行い、信頼性を確かめる。 ・理論式などの科学的モデルと結びつける。</p>	<p>・今回の研究を先行研究、先行事例や既存の理論と比較する。</p>	<p>・議論を通して、知りたいことを考える。 ・調査を通して分からない点をまとめておく。</p>	
4	研究を深めている	<p>基準</p> <p>調べたものを吟味して、問いや仮説を設定し、深められる</p>	<p>研究を深める調査計画を立てられる</p>	<p>調査結果を合理的にまとめ、解釈できる</p>	<p>考察が論理的で、問いや仮説が適切に検証されており、今後の課題と結びついている</p>	<p>論理的に発表し、かつ議論ができる</p>	
	<p>優候</p> <p>・問いを分岐させ、先行研究や先行事例と照らし合わせて、研究で明らかにする範囲を明確化している。 ・複数の実験をした上で、それを踏まえた仮説を立てている。 ・明らかにしたい事象や目的を持った上で、問いや仮説を立てている。</p>	<p>・問いの段階で設定した仮説について、その成否を検証する上で必要な調査の方法を考えている。 ・調査全体の枠組みと個々の実験と連関を考えて計画している。 ・より適切な形へ、思考実験や個々の実験の後に修正する。 ・より適切な実験条件の下で、実験を行っている。 ・実験の再現性を考慮できている。</p>	<p>・データの提示と解釈が正確に行われている。 ・状況に応じて定量的な解釈と定性的な解釈を結びつけて検証している。 ・既に得られている各種データと、自らの予想に整合性があることを確認している。</p>	<p>・考察で不十分な点や今後研究が必要な点を明らかにしている。 ・得られたデータと先行研究や先行事例とを比較・関連づけている。 ・適切な主張・証拠が含まれ、それらが筋の通った(一貫した)論理で構成されている。 ・考察から新たな問題を解決するための気づきがなされている。</p>	<p>・調査全体を通して明らかにしたこと、相手に伝わるように説明している。 ・自分の発表を客観的に見直し、不足している点や想定される批判を考えている。 ・行った調査の中から発表に必要な要素を取捨選択している。</p>		
次の段階へ向けて		<p>・次に出てくる問いを考える。 ・先輩の研究だけでなく、自分の興味のある文献や論文を調べ、同じグループ内で発表する。</p>	<p>・新たに出てきた問いを調査する方法を考える。</p>	<p>・さらにデータをまとめられないか考える。 ・複数のグラフを結びつける。 ・先行研究や先行事例におけるデータ処理などを理解する。</p>	<p>・今後の課題を考える。 ・データの扱い、導かれる結論について、グループ内でディスカッションを行う。</p>	<p>・どのような批判が予想されるかを考える。 ・自分たちの発表をビデオ撮影し、繰り返し見て、改善点、良くなった点を話し合う。 ・論旨をまとめ、なるべく短く発表してみる。</p>	
3	研究と呼べる水準に	<p>基準</p> <p>調査を定められるような問いや仮説を設定している</p>	<p>問いや仮説に合った、実行可能な調査計画を立てられる</p>	<p>調査結果をまとめ、一定の解釈をしている</p>	<p>論理的な考察がされている</p>	<p>論理的に発表できている</p>	
	<p>優候</p> <p>・検証可能な問いや仮説を立てている。 ・仮説が明確で分かりやすい。 ・研究の動機が明白である。</p>	<p>・問いの段階で設定した仮説と一致する調査の方法を自分で考え、計画、実施をする。 ・実行可能な計画である。</p>	<p>・得られたデータの種類や調査目的に応じて、データを適切なグラフや表などの形で自らで考えます。 ・データから、一定の合理的考察に結びつけている。 ・データの種類や調査の目的に応じて、グラフや表で表現する。 ・調査結果を整理し、必要な情報を抽出している。 ・データの傾向がつかめている。</p>	<p>・結果と考察を区別し、考察では自分の主張とそれを支える証拠をおおまか含み、論理を用いて客観的に考察を構成している。 ・結果として出てきた数値について、過不足なく考察している。</p>	<p>・調査全体を通して明らかになったことを意識し、発表においては聞き手を意識し、手順を丁寧に説明したり、実験装置の実物や動画を引用するなどして伝え、質問の応答など双方向のコミュニケーションが成立している。</p>		
次の段階へ向けて		<p>・先輩の研究を調べ、人のやっていない事をさがす。また、その研究を理解するためのまとめ学習やレポートをする。</p>	<p>・実際に行うことを想定して実験計画を考える。</p>	<p>・グラフの種類を調べる。 ・データの解釈をする。</p>	<p>・データの解釈について討論する。 ・先行研究や先行事例における結果の扱いを学ぶ。</p>	<p>・聞き手の立場を意識する。 ・今回の研究の意義が聞いている人に伝わっているか考える。</p>	
2	調べ始める段階で	<p>基準</p> <p>偶然とした問いや仮説がある</p>	<p>問いや仮説に合った調査計画を立てているが、内容が偶然としている</p>	<p>調査結果をまとめているが、解釈されていない。または不十分である</p>	<p>論理的な考察が不十分である</p>	<p>発表はしているが論理的でない</p>	
	<p>優候</p> <p>・問いや仮説を立てているが、検証可能性を考慮できていない。 ・研究の動機が分かりにくい。 ・検証する対象の妥当性が考慮されておらず、仮説が不適切である。</p>	<p>・研究手法と手続きを示している。 ・やりたいことはあるが、先行き不透明な計画、実験の状況である。 ・実験等が目的に合っていない、検証方法が不適切である。</p>	<p>・記録にとどまり、合理的な解釈やまとめできていない。 ・適切なグラフや表を選択できていない。 ・データの提示をしているが、その傾向をわかっていない。</p>	<p>・おおまかに正しい主張や証拠を含んでいるが、それらを論理的に結びつけていない。数値の支えのもと、適切な証拠にもとづいた主張を形成する。 ・考察が研究目的と一致していない。 ・考察が結果の提示になっている。</p>	<p>・発表では、調査の概要を羅列的に説明し、客観的に自分の発表を捉えたりできず、情報を提示するのみになっている。質問に適切に回答することにも困難が見られる。</p>		
次の段階へ向けて		<p>・生徒同士で話し合い、共通の興味を引き出す。</p>	<p>・まずはやってみる。</p>	<p>・グラフや表にまとめる。</p>	<p>・結果から言えることは何かを考える。</p>	<p>・何を伝えたいのか明確にする。</p>	
1	調べ始める段階で	<p>基準</p> <p>問いを出せない</p>	<p>問いや仮説に合った調査計画を立てられない</p>	<p>結果をまとめられない</p>	<p>論理的な考察がされていない</p>	<p>発表をまとめられない</p>	
	<p>優候</p> <p>・教師に与えられた問いを意識することができず、仮説を立てられない。</p>	<p>・調査計画を立てられない。 ・調査を実行することにおいて不備がある。</p>	<p>・得られたデータをどのように処理したら良いのかわからない。</p>	<p>・主張や証拠の結びつきに誤りを含んだり、構成した主張や証拠に誤りがある。その結果、主張が恣意的なものになり、説得したり、信頼を得る主張でなくなる。</p>	<p>・発表を行う際に、必要な要素を抽出することができない。聞き手を想定することにも困難が見られる。</p>		
日付		問い	方法	結果	考察	表現	
/	現在	/	/	/	/	/	/
	次に目指すこと						
/	現在	/	/	/	/	/	/
	次に目指すこと						
/	現在	/	/	/	/	/	/
	次に目指すこと						
/	現在	/	/	/	/	/	/
	次に目指すこと						

本ルーブリックは本校で用いられてきたルーブリックを改変したもので、京都大学大学院西岡教授に協力して頂き、また、令和元年7月28日に京都市立堀川高校で行われた「探究型学力 高大接続シンポジウム」で紹介された「標準ルーブリック」を参考にして作成した。

## 総合的な学習（探究）の時間のポスター発表を評価するルーブリックの開発の経緯

<平成30年度（Ⅲ期）>

### 探究応用ポスター発表ルーブリック

H30.9.25

	情報量	論理性、構成	発表
4	多面的な情報を集めている 根拠、バックデータ、一次資料、原文、専門書、論文等を引用している。	提言、波及に触れている 創造性がある。新しい考えである。概念化できている。	パフォーマー 発表を効果的に演出できている。身振り手振り、視覚に訴える道具など。声が良く通る。ハキハキしていて周囲を巻き込む。訴えかける。
3	正しい情報が過不足なくある 複数の出典による情報がまとめている。情報の取捨選択ができている。	一通りの発表が整っている 目的、方法、結果、考察。起承転結。ストーリーが明確	良い発表者 自分の言葉で伝える。内容を理解している。自分の限度がわかっている。質疑応答に対応できる。
2	必要最低限の情報がある 出典が明らかな情報である。集めただけ。切り貼り。	テーマに沿っているが不足がある 目的、方法、結果くらいがある。途中である。完結していない。	自信のない発表者 カンニングペーパーを読んでいる。書き言葉を読むだけで伝わらない。自分の言葉になっていない。どこを説明しているのかわからない。
1	不足している 出典が明らかなでない。真偽定かでない。限られた情報に頼っている。	テーマと内容の不一致 タイトルと内容が合っていない。一貫性がない。	そこらへんの人 やる気なし。内容を理解していない。人任せ。

太字：基準 明朝：徴候 H30. 8. 30の西岡先生の研修を受けて、西口先生と石井がまとめた。(H30. 9. 25)

## 探究発表評価ルーブリック

探究内容評価				
評価\項目	問い	方法	情報	考察
評価内容	・問いが明確である	・仮説を検証できる方法を計画している	・出典が明らかな情報がある	・情報から仮説が検証されている
	・仮説が立てられている	・実現可能な計画である	・情報量が適切である	・論理的に説明されている
	・社会的な問題と関連付けている	・信頼性や精度を考慮できている	・情報をしっかりとまとめている	・今後の展開が考えられている
4	評価内容がすべて満たされている			
3	評価内容の2つは満たすが、1つは不十分			
2	評価内容の1つは満たすが、2つは不十分			
1	評価内容のすべてが不十分			

ポスター発表評価				
評価\項目	研究の流れ	情報量	レイアウト・表現	発表方法
4	研究の流れが分かりやすくまとまっている	効果的にデータ量を示している	レイアウト全体が統制されている	発表を効果的に演出できている
	手順よく説明できている。わかりやすく記述できている	グラフや表を活用して、効果的なデータの示し方をしている	比較の形で表示している。全体が見やすい。項目が効果的に配置されている	身振り手振り、視覚に訴える工夫をしている。声がよく通る。訴えかけている。
3	研究の流れが一通り揃っている	データ量がある	項目が独立している	滞りなく発表できている
	目的・方法・結果・考察など、研究の流れが欠けていない	複数の観点からのデータがある。内容が詳しい。信頼に足るデータ量がある	内容が項目ごとに分けられている。ポイントがうまく提示できている。理解を助ける工夫がある	自分の言葉で伝える。内容を理解している。質疑応答に対応できる
2	研究の流れが不足している	データがある	表現方法に配慮が足りない	発表方法に配慮が足りない
	目的・方法・結果・考察など、研究の流れが欠けている。研究の深まりが見えない	自分たちでとらえたいくつかのデータがある。説明が不足している。分析が表示されていない	説明文が多い。発表原稿が書いてある。重要なポイントが分かりにくい	原稿を読んでいるだけ。自分の言葉になっていない。何の説明かわからない
1	研究の流れが把握できない	データがない	流れが分かりづらい	しっかりと発表ができていない
	研究の流れが大きく欠けている。取り組みが不十分	自分たちの取り組みや結果がない。ほかの人が調べたデータがほとんどである	ポスターとして見にくい。配置が不適切	内容が伝わってこない。

ポスターに載せる項目（目安）	
・タイトル（テーマ）	・方法
自分たちの探究を一言（一文）で表す	調べ方。データの収集方法
・動機、目的	・結果
なぜこの探究にしたのか。何に疑問を持ったのか	調べた結果。データの集約
・仮説（問い）	・考察、提言
予想される結果	結果から考えられること。今後の展望

<令和3年度（IV期）>

## 探究発表評価ルーブリック

評価\項目	探究内容評価			発表評価		
	問い	方法	考察	情報	レイアウト・表現	発表方法
評価内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いが明確である</li> <li>・独創的で興味を引く問いである</li> <li>・社会的な問題と関連付けている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説を検証できる方法を計画している</li> <li>・実現可能な計画である</li> <li>・信頼性や精度を考慮できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報から仮説が検証されている</li> <li>・論理的に説明されている</li> <li>・今後の展開が考えられている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出典が明らかな情報である</li> <li>・情報量が適切である</li> <li>・情報をしっかりとまとめている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目がしっかりと分けられている</li> <li>・探究の流れが分かりやすい</li> <li>・重要な部分、伝えたい部分が分かりやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容がしっかりと伝わってくる</li> <li>・自分の言葉として伝えられている。</li> <li>・視覚にうったえる発表をしている</li> </ul>
4	評価内容がすべて満たされている					
3	評価内容の2つは満たすが、1つは不十分					
2	評価内容の1つは満たすが、2つは不十分					
1	評価内容のすべてが不十分					

ポスターに載せる項目(目安)			
タイトル(テーマ)	自分たちの探究を一言(一文)で表す	結果	調べた結果。データの集約
動機、目的	なぜこの探究にしたのか。何に疑問を持ったのか	考察、提言	結果から考えられること。今後の展望
仮説(問い)	予想される結果	参考文献一覧	調べた本の名前やURLとサイト名など
方法	調べ方。データの収集方法		

## 高校生サミットにおけるルーブリックの開発の経緯

<平成30年度>

H30年度 高校生サミットでの活動(ワークショップ、サミット、生徒実行委員会)を通じた能力向上を測るルーブリック(自己評価用)

\_\_\_\_\_ 学校 \_\_\_\_\_ 年 氏名 \_\_\_\_\_

高校生サミットでの取り組みを通して、自分のコミュニケーション力及び、マネージメント力がどのように変化したかについて、7月時点には○、12月時点には◎を入れて下さい。

	グループワーク	
	コミュニケーション	共通課題のマネジメント
4	<b>グループ活動に創造的に協力できる。</b> グループ全体に不足している要素を埋めることができる。話し合いの中に出てきた2つ以上の意見をすり合わせたり、食い違い点を明らかにしたりするなど、グループとしての話し合いの方向付けをする活動が見られる。	<b>全体を見渡して研究の仕上げに貢献できる。</b> 全体をコントロールして、グループの意見をまとめていく取りまとめ役ができる。他者の能力を把握し、実現可能な提案をする。全体を見渡して、不足しているところや弱いところを見つけ、行動できるなど、自分が参加することの重要性を理解して、自ら行動できる。
3	<b>グループ活動に多様な参加ができる。</b> 話の流れに沿いながら、建設的な意見、批判的な意見、証拠を踏まえた意見、客観的な意見など、多岐にわたる発言を言うことができる。	<b>集団の中で自分の役割を見出している。</b> 量的問題を扱う研究の段取りができる。内容を深めることができる。リーダー、ご意見番、記録、実働、分析、PC係等の役割に置き、グループワークを活性化する方向で働いている。
2	<b>話し合いに参加できている。</b> 自分の頭で考えた意見を述べる、これまでに知り得たことを紹介するなど、話し合いの中に参加し、グループに情報を加えることができる。	<b>セルフマネジメントができている。</b> 質的問題を扱う研究の予定を立てて実行できる。段取りができる。宿題をこなすことができる。共通課題の性質や目的を捉え、自主的に参加している。
1	<b>話し合いに参加できていない。</b> 周りの意見を聞くのみである。話し合いの際に自分の意見が言えない。台本を読むように、決められたことをするのみ。	<b>セルフマネジメントに問題がある。</b> 予定を立てられない。段取りができない。決められた集まりに来れない。宿題ができない。

  

自己評価記述(到達していると感ずる理由・エピソード等)	
コミュニケーション(7月) 自己評価( ) 理由・エピソード	共通課題のマネジメント(7月) 自己評価( ) 理由・エピソード
コミュニケーション(12月) 自己評価( ) 理由・エピソード	共通課題のマネジメント(12月) 自己評価( ) 理由・エピソード

R3年度 高校生サミットでの活動(ワークショップ、サミット、生徒実行委員会)を通じた能力向上を測るルーブリック(自己評価用)

高等学校 年 氏名

1. 高校生サミットでの取り組みを通して、自分のコミュニケーション力及び、マネージメント力がどのように変化したかについて、7月時点(第1回ワークショップ)に○、12月時点(京大発表)に◎を入れて下さい。

グループワーク				
	コミュニケーション	7月:○ 12月:◎	ディスカッションのマネジメント	7月:○ 12月:◎
4	<b>グループ活動に創造的に協力できる。</b> グループ全体に不足している要素を埋めることができる。話し合いの中に出てきた2つ以上の意見をすり合わせたり、食い違う点を明らかにしたりするなど、グループとしての話し合いの方向付けをする活動が見られる。		<b>全体を見渡してディスカッションの仕上げに貢献できる。</b> 全体をコントロールして、グループの意見をまとめていく取り組み役ができる。他者の意見を把握し、提案ができる。全体を見渡して、不足しているところや弱いところを見つけ、行動できるなど、自分が参加することの重要性を理解して、自ら行動できる。	
3	<b>グループ活動に多様な参加ができる。</b> 話の流れに沿いながら、建設的な意見、批判的な意見、証拠を踏まえた意見、客観的な意見など、多岐にわたる発言を言うことができる。		<b>集団の中で自分の役割を見出している。</b> ディスカッションを論理的に進行する段取りができる。主体的に進行し、内容を深めることができる。リーダー、記録、提案、分析、発表係等の役割に自ら就き、グループワークを活性化する方向で働いている。	
2	<b>話し合いに参加できている。</b> 自分の頭で考えた意見を述べる、これまでに知り得たことを紹介するなど、話し合いの中に参加し、グループに情報を加えることができる。		<b>ディスカッションの流れを理解できている。</b> ディスカッションの大きな進行を企画して実行できる。段取りができる。課題をこなすことができる。共通テーマの性質や目的を捉え、自主的に参加している。	
1	<b>話し合いに参加できていない。</b> 周りの意見を聞くのみである。話し合いの際に自分の意見が言えない。台本を読むように、決められたことをするのみ。		<b>ディスカッションの流れを理解できていない。</b> 進行の段取りがあまりできない。テーマを基に考えることが不足している。	

自己評価記述(到達していると感じる理由・エピソード等)

コミュニケーション(7月) 自己評価(1/2/3/4) 理由・エピソード	ディスカッションのマネジメント(7月) 自己評価(1/2/3/4) 理由・エピソード
コミュニケーション(12月) 自己評価(1/2/3/4) 理由・エピソード	ディスカッションのマネジメント(12月) 自己評価(1/2/3/4) 理由・エピソード

2. 高校生サミットでの取り組みを通して、自分自身の探究(課題研究)への認識がどのように変化したかについて、7月時点には○、12月時点には◎を入れて下さい。

自身の探究の深まり		7月:○ 12月:◎
自身の探究テーマ( )		
4	課題が練られており、充実した活動が行われている。インパクトのある成果が生み出されている。	
3	課題に即して活動が行われており、ある程度の成果が生み出されている。	
2	一応の具体的な課題が設定され、活動が行われている。	
1	漠然としたテーマがあるのみで、具体的な課題と活動内容が設定されていない。	

3. 高校生サミットでの取り組みを通して、次の3つの力がついたと思いますか？

(1)地域の課題を発見する力

4. とってもついた 3. ある程度ついた 3. あまりつかなかった 1. ほとんどつかなかった

(2)地域の課題解決に向けて考える力

4. とってもついた 3. ある程度ついた 3. あまりつかなかった 1. ほとんどつかなかった

(3)地域の課題解決に向けて提言する力

4. とってもついた 3. ある程度ついた 3. あまりつかなかった 1. ほとんどつかなかった